# SCADP孤児院について

SCADP(Street Children Assistant and Development Program)孤児院はカンボジアの NGO 団体の SCADP が運営している孤児院です。



SCADP は、イム・ソクハリーによって 1992 年に設立されました。
ストリートチルドレンだけではなく、児童労働にも目を向け、子どもたちの保護や教育支援を行っています。

SCADP 孤児院では、貧困などの理由から学校に通えず、幼い年齢から労働にいそしんできた子どもたちが、住み込みで小学校4年生までの総合的な教育を受けられ、カンボジア伝統舞踊の基礎も学ぶ事ができます。また、公立学校への入学のサポートも行っています。

プノンペンの街を歩くと、現在の日本とは明らかに違う光景が目に飛び込んでくる。それはSCADP孤児院で暮らす少年少女がそうだったように、幼い子どもたちが路上で働いている姿だ。10歳にも満たない子どもたちが物請い、靴磨き、ごみ拾いなどをしている。それらの子どもたちは、自らが働かなくては生きていけない。

両親から捨てられた子ども、エイズ孤児、人身売買など路上で働く子どもたちの背景には、現代カンボジアが抱える社会問題が見え隠れする。プノンペンにはそのようなストリートチルドレンがおよそ 4000 人いるといわれている。

